

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2025年9月30日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 農学研究科

職 名・学 年 助教

氏 名 真鍋 祐樹

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	International Congress of Nutrition IUNS-ICN2025		
発 表 形 式	☐ 招 待 ・ ☐ 口 頭 ・ ☒ ポスター ・ ☐ その他(		
発 表 題 目	Search for Siphonaxanthin Dehydrogenase Modulators		
開 催 場 所	Palais des congrès de Paris, Paris, France		
渡 航 期 間	2025年8月23日 ～ 2025年8月30日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。 「成果の概要」以外に添付する資料 ☒ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	350,000円	
	使用した助成金額	350,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	374,210
		宿泊費	144,000
		滞在費	
		学会参加費	103,867
	その他		
以上に助成金を充当			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 上記の通り、航空運賃、宿泊費、学会参加費といずれも高額であったため、本助成においてサポートしていただけただけなこと、大変感謝しております。ありがとうございました。		

成果の概要 / 真鍋 祐樹

公益財団法人京都大学教育研究振興財団による国際研究集会発表助成を受け、2025 年 8 月 24 日から 29 日にフランス、パリ市において開催された International Congress of Nutrition IUNS-ICN2025（国際栄養学会議 2025）において「Search for Siphonaxanthin Dehydrogenase Modulators」の題目でポスター発表を行った（渡航期間は 8 月 23 日～30 日）。国際栄養学会議は 4 年に 1 度開催される栄養学に関する国際学会であり、栄養学の王道ともいべきヒトを対象とした調査研究や介入研究の専門家、さらには分子生物学的に栄養素の機能を解明しようという研究者が集まり、最新の栄養学についての議論が交わされる。今回は、おそらく地理的な理由によると思われるが、アフリカ各国からの参加者が多く、それぞれの国や地域における栄養状態のセッションなども数多く組まれていた。ヨーロッパで開催される国際学会には初めての参加であったため、アフリカからの参加が多いことを非常に新鮮に感じたと同時に、これまで参加してきた国際学会がアジア開催のものばかりで偏りがあったことを反省するきっかけになった。

国際栄養学会議 2025 への参加を志したのは、自身の研究を広く知っていただきたいという理由が最も大きかったが、もうひとつには日本栄養学学術連合が関係している。私は日本栄養学学術連合が東京栄養サミット 2021 において発表したコミットメントの作成および遂行に事務担当として参加している。このコミットメントは、当該連合に所属する栄養学関連学会が 2021 年からの 10 年間に、若手の人材育成等に取り組むことを世界に向けて宣言したものであり、4 年毎に開催される国際栄養学会議において途中経過を報告することになっている。事務担当であり、若手でもあるため、今回の経過報告に対する世間の反応をぜひ確認したいと国際栄養学会議 2025 への参加を志した。報告会場（シンポジウム会場）には、満席に近いほど多くの研究者が集まり好評であったため、残りの期間においても引き続きコミットメントの遂行、達成に貢献したいと決意することができた。

以上のような貴重な学びを得られたのも、貴財団によるご支援があつてこそであり、ここに感謝の意を表したい。このたびは多大なご支援を賜り、誠にありがとうございました。